

青森だけの音楽 堪能して

今年で2回目を迎える「青い海と森の音楽祭」(東奥日報社などでつくる実行委員会主催)は、31日から県内各地で開かれる。昨年に続いて今年も多くの公演に出演し、音楽祭の主要メンバーを担うバイオリンの北田千尋(広島交響楽団ソロ・コンサートマスター)が9月、青森市内で本紙取材に応じ「このときにしか聴けない音楽をぜひ堪能してほしい」とアピールした。(秋村有香)

北田は昨年も初日のアウトリーチ(出前演奏会)から参加。芸術総監督の沖澤のどか(青森市出身)と音楽主幹の隠岐彩夏(五所川原市出身)ら8人で、県内各地に一流の音楽を届けた。アウトリーチはほぼ初めての経験だったという「クラシック音楽を(生で)聴くのが初めての人もいれば、最後の人もいるかもしれない。命をかけて音を出さないと」と思った」と振り返った。



北田千尋インタビュー



「去年よりパワーアップしてお届けしたい」と話す北田

珍しいプログラム「楽しみ」

印象的だった公演の一つが「ファミリーコンサート」。弘前市出身の西沢澄博(オーボエ)や青森市出身の水野琴音(バイオリン)らが多くの親子を前にソリストを務めた。「地元出身の演奏家になんかに素晴らしい人たちがいるんだよ」と伝わったと思う。見ていて温かい気持ちになったという。

北田は今年の音楽祭も11月3日の公演を除き全てに出演する。青森市の県立美術館アレコホールでの室内楽公演(4日)は「歌もハープもあるという編成は珍しく、普段聴けないプログラム」。自身が出演する室内楽とハープの組み合わせは初めてだといい、「今からとても楽しみ」とほほ笑んだ。

弘前(6日)、青森(8日)の両市で開くオーケストラコンサートではメンデルスゾーンの交響曲第4番「イタリア」を演奏する。「最近弾いたり聴いたりする機会が多いけど、このメンバーで、さらに世界で活躍する沖澤さんの指揮で演奏するのは特別な機会。存分に吸収したい」とし、曲についても「爽やかな印象で青森の景色にもぴったり合う気がする」と語った。

「青森に素晴らしい演奏家たちが戻ってくる。これからも末永く続いてほしいので多くの人に来てほしい」。期間中は青森のグルメも楽しみたいという「昨年行きそびれた、うなぎのお店に行きたい」と笑顔を見せた。